

しい印象があるかもしれません。TOEFL iBT が公式スコアで、0 から 120 点で評価されます。愛知大学では、派遣留学のため、団体受験制度である TOEFL ITP (677 点満点) が実施されています。iBT と ITP では問題の形式や内容が異なるため、注意が必要です。また、大学によって要件とするスコアも異なりますので、留学を考えている学生のみなさんは、国際交流センターで確認してください。一般的には、iBT なら 70 点程度を、ITP なら 550 点程度を目標とするとよいでしょう。

TOEFL iBT は、試験会場の PC を用いた試験で、4 時間程度をかけてスピーキングやライティングを含む多種多様な問題に取り組みます。

TOEFL ITP は、従来の紙とマークシートを用いた試験で、およそ 2 時間の試験です。リスニング (50 問)、文法 (40 問)、読解 (50 問) の 3 つのパートから構成され、310 点から 677 点で評価されます。過去の TOEFL 問題を利用していますが、こちらも採点の際に統計的な処理を行っているので、スコアの安定性は十分高いと言えます。

どちらの試験でも、海外での大学生活を想定しているため、講義を聞いて理解する問題や、キャンパス内での事務的な手続きに関する内容の問題が出題されます。特に iBT では、総合的な高い英語運用能力が求められると言えるでしょう。

これらの他にも、国連英検やビジネス英検、通訳案内士 (通訳ガイド) 試験など、様々な資格試験があります。語学教育研究室では、それぞれの試験で一定以上の成績を取った学生に、奨励金を贈っています。みなさんの学習の成果を確認し、今後の学習に繋げていくためにも、是非積極的に資格試験を利用してみてください。

## TOEIC と私

法学部3年 森 優香子

私は英語が好きでも得意でもない。ましてや TOEIC は今まで受けた様々な試験のうち最も嫌だと思った試験だった。(ちなみに二番目は愛知県の某私立高校の入試問題。)

### その1 解いていてつまらない

問題が短文でストーリーもなにもなく、問題を解くというより処理する形式でおもしろ味が全くない。センター試験の方がまだ解く気になった。

### その2 TOEIC の点数 = 英語力とはいえない

英語が得意な人ほど点数がとれることは否定しないが、語学力に直結するものではない、と個人的に思う。

### その3 特化した対策をすれば点数がとれる

英語が苦手でも、専用の問題集を使って対策をすれば点がとれる。資格試験であると考えれば普通にも思えるが、足切りの判断にするのはいかなものか。実践出来なければ意味がないのでは。

このような理由から、私がこれまで TOEIC を受けたのは学内で強制的に受験させられた 2 回だけだが、問題集を使って独学で勉強した 2 回目には、1 回目の点数を 100 点以上上回り、目標の 600 点を達成することができた。英語より数学が好きで、英語を自分から積極的に勉強しようとは思えないこの私が。

ということは、TOEIC は勉強すればその分結果として返ってくる、頑張れば誰でも取得できる資格であるということだ。

散々文句を言ったが、TOEIC は今後ますます避けて通れない道となることも承知している。(私はもう満足したのでしばらく受験する

予定はないが。)でも、英語が嫌いな人も苦手な人も、TOEIC に関しては諦めることはない、と私が自信をもって言いたい。だって勉強したらちゃんと点数とれたんだもの。

最後に、前回のTOEICの対策の際に相談にのっていただいた石原先生、国コミュの4年生の先輩に、この場を借りてお礼を申し上げます。ちゃんと目標点数とれました。ありがとうございました。また、もし気が変わって受験しようと思ったときには、ご指導よろしくをお願いします。

---

## TOEIC と私

法学部3年 西村 瑠保理

「我が社の公用語を英語にします」というセリフから始まる某インスタント麺企業のCMがある。不安に駆られる中、必死に外国人の上司に立ち向かおうとする甲冑を着たサラリーマンたちを描いている。最初は「英会話の塾の宣伝か?」とも思ったが、最後には某社の看板商品が出てきて「これかい! (笑)」と安心させてくれたのと同時に、まるで某ネット関連企業を皮肉っているようでクスッとさせてくれた。その中に英検3級、TOEIC 300点というセリフが出てくる。点数云々はおいといてTOEFLを含めこれら日本人がどれか一つは必ずと言っていいほど受けている英語の資格だ。

特徴としてTOEICはビジネス色満載であり、TOEFLは学術的内容により小宇宙が生成されているといっても過言ではない。その点、英検は日常的なものからアカデミック、ビジネスと幅広い。英検は他の2つと違い、合格点さえとればよい。つまり満点の人も胴体着陸の人も等しく級がとれるのである。うむ、魅力的。勉強方法は、一次試験では3級までは文法中心で

よいだろうが、準2級以上になると話は変わる。文法力と共に語彙力をつけなければならない。さもないと、ギリで一次落ちという悲劇的現象が頻発する。ただ、単語帳をやりこむほどではなく参考書の単語のリストの意味が分かる程度でいいだろう。1級には記述問題もあるが今回は割愛させていただきたい。一次を突破すると次に待ち構えているのは面接だ。ここで重要なのはとにかく積極性をアピールし評価の一つ *attitude* の点を稼ぐことである。面接で何があるかわからないことも考慮し是非とも満点をいただいておきたい。さて、正直、大学生になるとTOEICの派手な出現に伴い英検の影は薄くなる。と言っても国内なら認知度もあり全く使えないこともないはず、多分。ここまで英検を例に話を進めてきたが、これら資格試験は英語を学ぶという目的・手段の一つであればいいだろう。何より重要なのは、「英語を学びたい」という意思だと私は思うのである。



---

## ドイツ語検定

経営学部 島田 了

---

### ドイツ語技能検定試験について

ドイツ語技能検定試験(独検)は、公益財団法人ドイツ語学文学振興会が主催する検定試験で、1992年に始まったものです。当初は、1級、2級、3級、4級で始まりましたが、後に準1級と5級が追加され、より幅広いレベルに対応することになりました。試験は、春季(6月)と秋期(11月)の年2回行なわれています(ただし1級、準1級については秋期のみ、かつ二次試験として口述試験が別日程であります)。